

熊本県の観光・レジャーに関するアンケート(2023年3月調査)

「熊本県の観光・レジャーに関するアンケート(2023年3月調査)」を実施した結果を公表いたします。(発送数:283、回収数:113、回収率:39.9%、回収期間:2023年3月1日~2023年3月10日)本アンケートは、県内の観光・レジャーの動向をいち早く捉えるために実施しております。

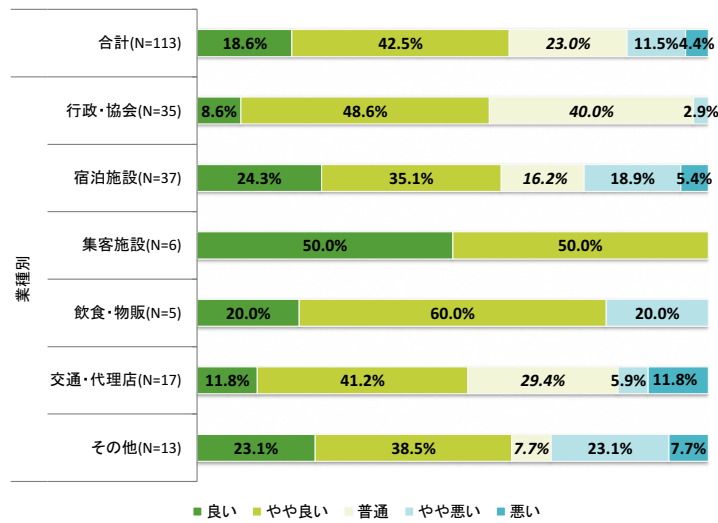
1. 熊本県観光DI まとめ

	現状判断DI (1月~3月)	見通しDI (4月~6月)
合計(N=113)	64.8	70.4
行政・協会(N=35)	65.7	72.9
宿泊施設(N=37)	63.5	62.2
集客施設(N=6)	87.5	83.3
飲食・物販(N=5)	70.0	87.5
交通・代理店(N=17)	58.8	70.6
その他(N=13)	61.5	73.1

1~3月の熊本県の現状判断DIは64.8となった。前期(66.3)に比べると微減となったが、今期も全ての業種でDIは50を上回り、総じて好況が続いていると言える。業種別では、飲食・物販や宿泊施設で下落が見られるものの、集客施設では30pt以上の上昇を記録している。またコメントからは、インバウンド回復への言及も増加した。

また、見通しDIは70.4となった。前回(52.2)から20pt近く上昇しており、全ての業種でDIが60を上回るなど、景気の更なる向上が見込まれる。今回「良くなる」「やや良くなる」要因として、マスク着用義務の解除など、新型コロナに関する制限の緩和により旅行の機運が高まることなどが挙げられた。一方、「悪くなる」「やや悪くなる」要因としては、全国旅行支援の終了や、新型コロナの5類移行による感染の再拡大への懸念がみられた。

2. 1~3月期の動向、景況感

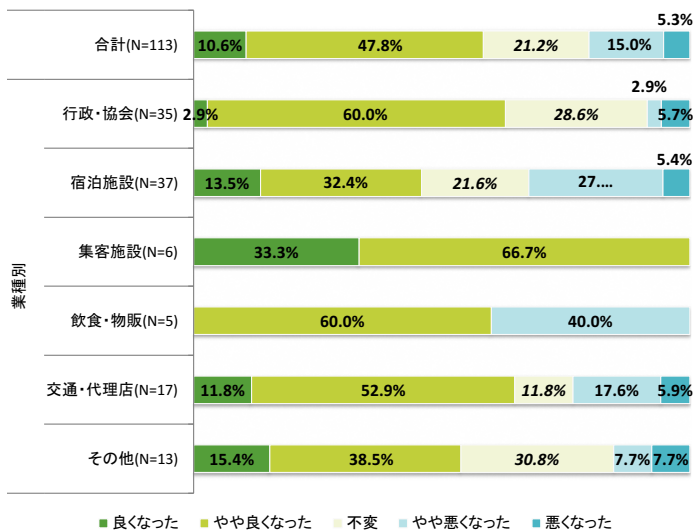


1~3月の景況感は、全体では「良い」「やや良い」の合計が61.1%、「悪い」「やや悪い」は15.9%となった。集客施設では全ての施設で「良い」「やや良い」との回答がなされた。

【コメントの抜粋】

- 良い
TSMC工事関係及び旅行の全国割(宿泊施設)
天候が安定していたことや旅行支援策がプラスに影響(集客施設)
- やや良い
観光客の増加(特にインバウンドの増加)(飲食・物販)
観光パンフレット送付などの問い合わせが多くなっている。(行政・協会)
- 普通
2022年度と比較するとやや良好だが、インバウンドの回復が未のため(行政・協会)
- やや悪い
年末頃から、コロナの感染者数が増加傾向にあったため(その他)
全国旅行支援の割引が昨年より下がったため(交通・代理店)
- 悪い
季節要因、特定日・時期を除きオフ期、旅行支援利用の不服感、割引率の低下、豪雨災害後観光アクティビティの未回復(宿泊施設)

3. 2022年10~12月期に比べて1~3月の動向、景況感

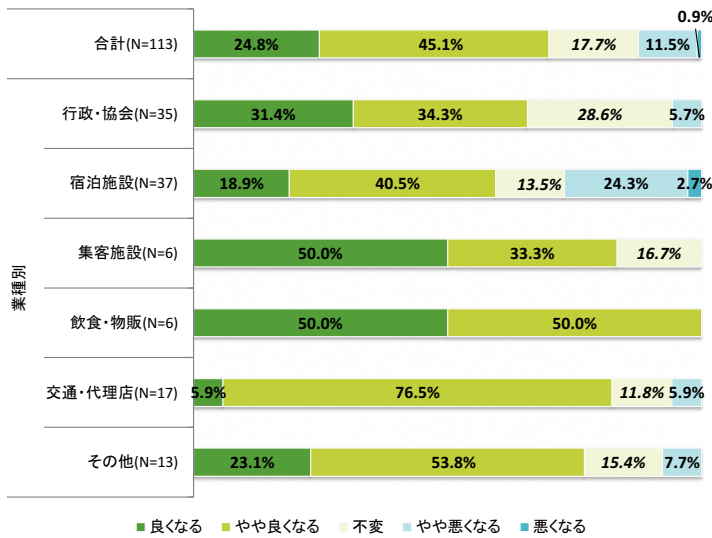


10~12月期に比べて1~3月の動向・景況感は、全体では「良くなった」と「やや良くなった」の合計が58.4%、「悪くなった」と「やや悪くなった」の合計は全体で20.4%となった。景況感向上の理由としては、特にインバウンド客の回復が多く報告されている。

【コメントの抜粋】

- 良くなった
インバウンドのお客様の来館。個人と一般団体が戻ってきている。(その他)
- やや良くなった
外国人観光客の増加、航空便の利用者増(交通・代理店)
個人旅行、団体旅行の来館者が増えてきている(集客施設)
商品の値上げがされているが、本市では物価高騰対策商品券事業を行っていたため。(行政・協会)
- 不変
日本人のお客様が10月~12月は多かったが1月~3月は減少。一方でインバウンドのお客様が1月以降は増えてきた。(宿泊施設)
- やや悪くなった
昨年の年末にかけ、少しコロナが落ち着いたときがあり、また忘年会を早めに開催するところやコロナで出来なかった忘年会、飲み会を開催する人が増えたため(飲食・物販)
- 悪くなった
全国割の割引率が高かった為10月~12月は高稼働だった。それに比べ1月より割引率が下がった影響もあり、稼働が低くなった(宿泊施設)

4. 今後、6月までの業況の見通し



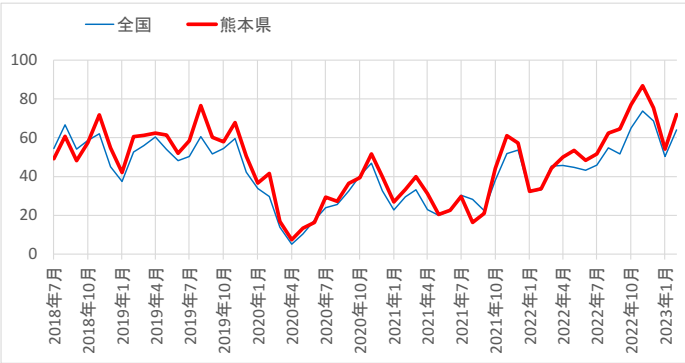
今後6月までの業況の見通しは、全体で「良くなる」と「やや良くなる」の合計は69.9%、「悪くなる」と「やや悪くなる」の合計は12.4%となっている。

【コメントの抜粋】

- 良くなる
日帰り客、インバウンド訪日客が順調に回復しているため。(その他)
春修学旅行の予約等も好調に入っており、新歓遠足なども好調の為。今後、順当に推移すれば2019年並の来園者数を見込める。(集客施設)
- やや良くなる
3月のマスク着用の緩和やコロナ感染者数の更なる減少により旅行需要が伸びると期待している。(交通・代理店)
熊本空港オープンによる熊本への立ち寄り者の増加も増収に繋がると考えております。(飲食・物販)
- 不変
新型コロナウイルス感染症の5類移行による影響が予測出来ないため(良くなるのが悪くなるのが不透明)。(行政・協会)
- やや悪くなる
需要は増える見込みがあるが、キャパシティ増加の見込みがない。宿泊施設が不足しているため、これまで例年取り組んでいた団体誘致のキャンセルが出ている。人手不足や物価高騰、地価の高騰で観光面には負担がかかっている。(行政・協会)
- 悪くなる
全国旅行支援が3月で終わるため。コロナ前のインバウンドのお客さんがどれだけ、戻るか、見込めない。(宿泊施設)

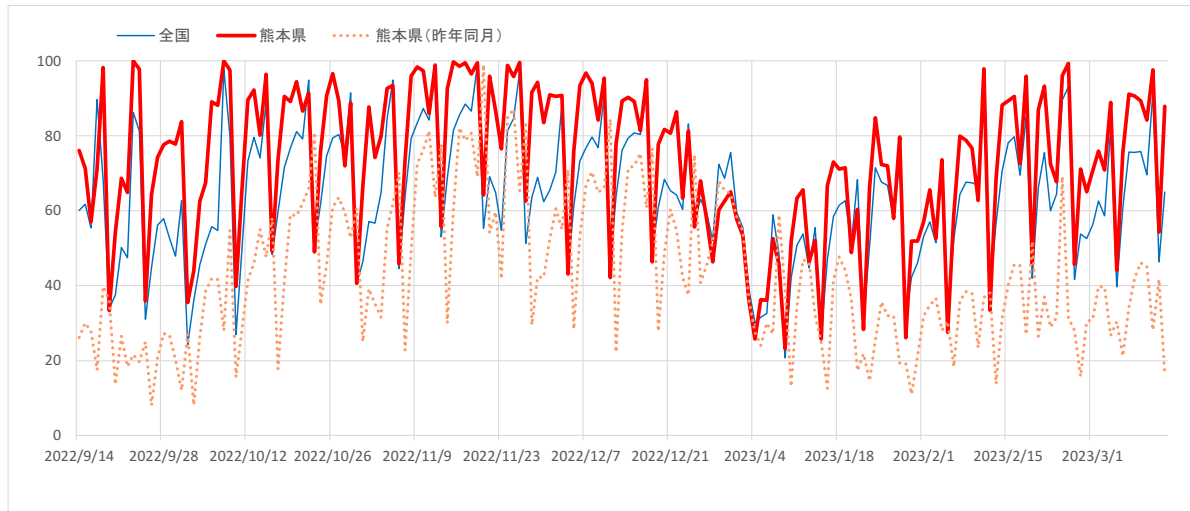
5. 宿泊稼働指数の動向

①月次別



2023年1月における熊本県の宿泊稼働指数は54.1(前年差+21.8pt)、2月は71.9(同+38.2pt)となった。
1月は例年閑散期であることに加え、新型コロナの再流行、全国旅行支援の縮小も影響し、10~12月に比べると指数の低下が見られる。しかし、コロナ禍前を上回る稼働指数を記録している。2月は感染状況の改善や1月の反動などから、再び稼働指数も上昇に転じた。
エリア別でみると、行楽シーズンが過ぎたことで、天草地域や阿蘇地域など人気の観光エリアで指数の低下が見られた。一方で、人吉・球磨地域やTSMC工場の建設が進む菊池地域では高水準で推移している。

②日次別



熊本県の宿泊稼働指数を日次別(原数値)でみると、1月上旬は50未満を記録する日も多かったが、中旬以降は指数も徐々に回復し、平日でも70を超える日が見られるようになった。また、2月中旬以降は、2/25(土)に99.3を記録するなど、土曜日を中心に90を超える日が見られるようになった。国内客の変化に加えて、熊本空港のソウル便が再開されたことなどによるインバウンド客の増加の影響も大きいと推察される。
全国と比較すると、1月は土日を中心に熊本県の指数が全国を下回る日が見られたが、2月以降はほとんどの日で熊本県が全国を上回っている。

用語解説

※DI(デフレーション・インデックス)

同調査におけるDIは、現在の景況感(現状判断)、現在と比べた3ヶ月後の見通し(先行き判断)に対する5段階の判断に、それぞれ点数を与え、これらの回答区分の構成比(%)を乗じたものである。(良い…+1、やや良い…+0.75、変わらない…+0.5、やや悪い…+0.25、悪い…0)。DIが50を超えた場合、景気が上向いていることを示す。

※宿泊稼働指数

宿泊稼働指数は日次の空室の水準を指数化したもので、(公財)九州経済調査協会が推計・公表。原数値は0から100の間の数値をとり、稼働状況が良い場合は100に、稼働状況が悪い場合は0に近づく。なお、2020年4～6月分については、緊急事態宣言による休業が多く発生していたことから、同期間に営業していた施設のみを分析対象としている。

具体的には、以下の式より算出している。

$$100 - \left(\frac{\text{当日の空室数} - \text{当日を含む過去730日の最小空室数}}{\text{当日を含む過去730日の最大空室数} - \text{当日を含む過去730日の最小空室数}} \right) * 100$$

本稿では、①月次別では、日次(原数値)データを7日間周期のデータとみなして要因分解し、曜日要因を除いたものを単純平均したもの、②日次別では原数値を使用している。